

夢二の歩いた 金沢・湯涌

竹久夢二(1884-1934、岡山生)が3度の金沢滞在中に残した足跡を日記や作品などから読み取り、主なものを当時の古地図に記載してみました。(平成30年3月10日)



「長町の壁」(『夢二画集 旅の巻』(洛陽堂 1910年)の口絵)



「湯の街」水彩・鉛筆／紙 1917年



金沢湯涌夢二館

Kanazawa Yuwaku Yumeji-kan Museum

〒920-1123 石川県金沢市湯涌4144-1 TEL (076)235-1112 FAX (076)235-1115
http://www.kanazawa-museum.jp/yumeji/

第1回滞在 明治43年(1910)5月5日～18日

前年に離婚した岸たまきの故郷・金沢へ「壁をたずねて」旅をし、その紀行文とスケッチが『夢二画集 旅の巻』(1910年7月刊)の前半となった。

- ① 金沢駅
- ② 基督教青年会館跡(新川除町):現在の犀川神社辺か。金沢を発つ時に河原で「別れの歌」が歌われた。
- ③ 木の花幼稚園(長町3丁目):幼稚園児たちをスケッチ。
- ④ 穴水の門:たまきの母校・金沢市高等女学校の後身があった。
- ⑤ リンゴの木(高岡町):当時栽培されていたカイドウリンゴか。
- ⑥ 用水のある街:魚を洗い、洗濯をする姿をスケッチ。
- ⑦ 長町の土堀(表紙参照):土堀や石垣などをスケッチ。
- ⑧ 北陸女学校跡(現北陸学院・上柿木畠)
- ⑨ 兼六園:5月13・14日に開催された招魂祭でスケッチ。
- ⑩ 岸たまき生家跡(旧味噌蔵町・現大手町):土堀の角から幼いたまきが覗く姿を夢想する。
- ⑪ 浅野川大橋と主計町:双方でスケッチ。
- ⑫ 野田山墓地:たまきの父・岸六郎の七回忌に墓参し、途中で尼僧をスケッチ。



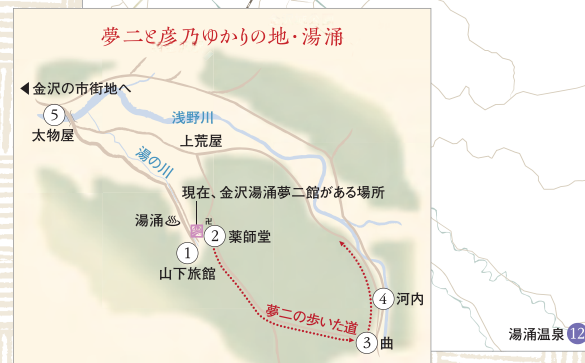
背景の地模様の出典は、竹久夢二著『山へよする』の表紙より

第2回滞在 大正6年(1917)8月25日～10月17日

笠井彦乃と次男・不二彦を伴い、北國新聞社の西出朝風、西尾源二郎などの世話で開いた画会は大成功し、後半の3週間余は湯涌に滞在した。

- ① 金沢駅
- ② 藤屋旅館跡(柿木畠、現金沢教会):滞在中の旅館。
- ③ 北國新聞社旧社屋跡:展示・広報に協力した。
- ④ 金谷館跡(西町・尾山神社南西側):9月15・16日の展覧会場。
- ⑤ 岡本小児科病院跡(西町):不二彦が入院した。
- ⑥ 登喜和楼跡(旧母衣町):展覧会後に歓迎会開催。
- ⑦ 宝円寺(宝町):「宗達忌」に参加し芳名帳にサイン。
- ⑧ 宮川兄弟の邸宅跡(茨木町) ⑨ 西新地(現にし茶屋街)
- ⑩ 西出朝風宅跡(千日町):彦乃と新橋を渡って訪問。
- ⑪ 金石
- ⑫ 湯涌(9月24日～10月16日)

① 山下旅館(現お宿やした) ② 薬師堂 ③ 曲 ④ 河内 ⑤ 太物屋



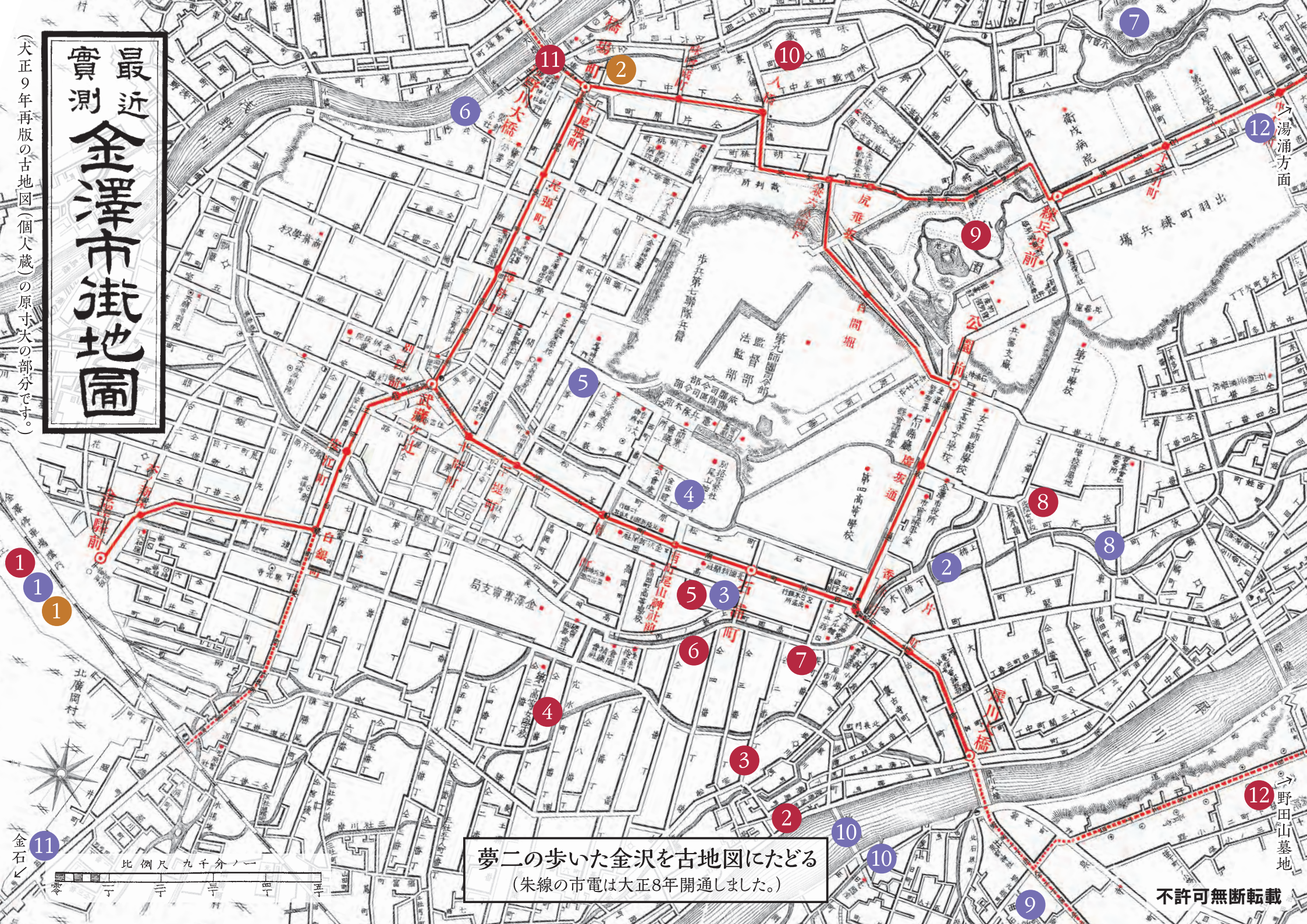
第3回滞在 昭和4年(1929)(2月10・11日)

- ① 金沢駅
- ② 金城楼:西尾源二郎、殿田良作などと親交を温める。

不許可無断転載

(大正9年再版の古地図(個人蔵)の原寸大の部分です。)

最近 實測 金澤市街地圖



夢二の歩いた金沢を古地図にたどる
(朱線の市電は大正8年開通しました。)

不許可無断転載